

2016年度

環境活動レポート



対象期間 : 2016年4月～2017年3月

発行年月日 : 2017年5月15日

株式会社ト一ノ精密

目 次

- 1 挨拶
- 2 環境方針
- 3 事業概要&認証登録範囲
- 4 実施体制
- 5 環境目標
- 6 環境活動計画
- 7 環境目標の実績
- 8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容
- 9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無
- 10 代表者による全体評価と見直し結果

1 挨拶

この度は、株式会社トーノ精密の環境活動レポートをご覧頂き誠にありがとうございます。

企業は社会への貢献を目的のひとつとし、健全で持続的な成長をしていくことが重要な使命です。

弊社は、私たちをとりまく自然や社会の恩恵を受けながら、社会の信頼と期待にこたえるために活動しています。社会から受け入れられ、尊敬されなければ、企業として持続していくことは不可能です。

私は、地球市民として、お客様とともに価値を創造し、持続可能な社会を目指したいと考えています。

私は、弊社に出来る、社会的貢献とは何かを考え続け、社員が元気に、誇りを持って働ける企業としてエコアクション21に社員と共に取組み、社会的責任を果たしていきます。

代表取締役
佐々木 弘志

2 環境方針

環境方針

<環境理念>

a) 地球に、「喜んで貰える企業」を目指す

b) 次世代に、「美しい環境社会」を引渡す

c) 全従業員で取組む、「エコアクション21」

<環境保全への行動指針>

1. 環境に及ぼす影響を評価し、環境負荷低減の継続的改善に努める
2. 環境関連法規を遵守し、環境保全と汚染防止に努める
3. 環境負荷の低減と改善の重点項目
 - ◇電気使用量の実質削減(原単位 7%以下での生産)
 - ◇燃料使用量の実質削減(2014年度と同レベル 15年度比 -10L/月)
 - ◇廃棄物排出量の0.5%削減
 - ◇水排出量の削減(年間使用量 12.5L/人 → 12L)
 - ◇夏季ピーク電力の削減(440kw \geq の監視強化)
 - ◇PRTR制度対象化学物質購入の全廃
 - ◇廃材はほぼゼロ、軽量省資源の製品製造可能なMIMのPR推進
 - ◇社外クレーム、社内不良ゼロを目指す
4. 環境方針を携帯し、周知及び環境意識の向上を図る
5. グリーン購入を促進し、循環型社会の実現に貢献する

制定日:2009年 10月 30日

改訂日:2016年 6月 27日 第7版

株式会社トーノ精密

代表取締役

佐々木弘志

3 事業概要 & 認証登録範囲

1 名称及び代表者名

株式会社トーノ精密
代表取締役 佐々木 弘志

2 所在地

本社 〒028-0542
岩手県遠野市早瀬町3-10-1
電話 0198(62)8097 FAX 0198(62)8030

3 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 製造1課 課長 梅田 一志
担当者 品質保証課 課長 星野 昭仁
連絡先 電話・FAX 所在地に同じ
E-mail hoshino@tohno-pre.co.jp

4 事業活動の内容

- ①プラスチック射出成形品製造
- ②プラスチック射出成形金型設計製造
- ③金属粉末射出成形品製造(MIM)
- ④金型内金属樹脂間直接接着製造(TRI)

5 事業規模 2016年度

資本金 30百万円
製品出荷額(又は、販売額) 6.96 億円
主要製品生産量 108トン

項目	本社
従業員	68名
延べ床面積	2310㎡

6 認証登録範囲

全社、全事業活動、全従業員

7 事業経歴・営業範囲

事業経歴

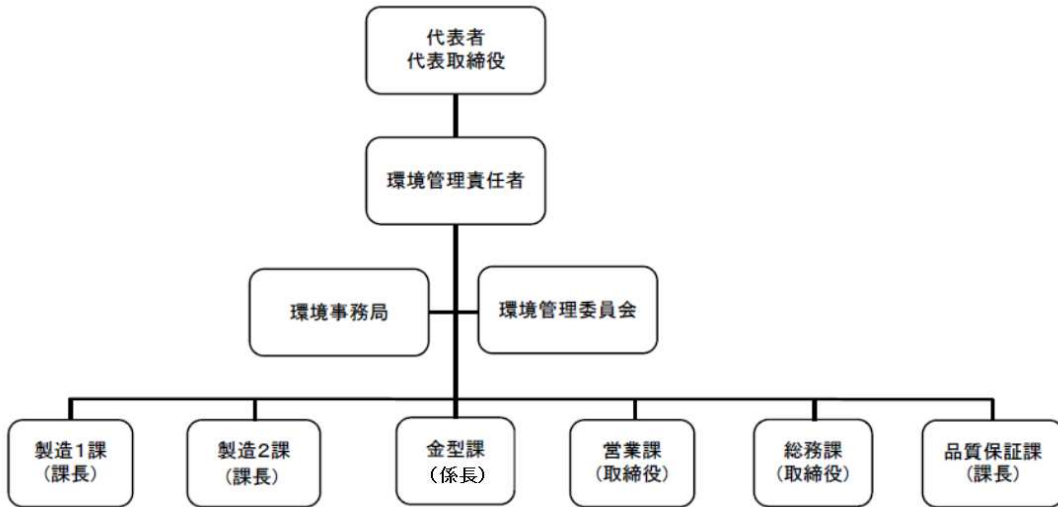
昭和51年4月 有限会社トーノ精密創立
昭和58年8月 金型工場増設
昭和59年3月 成形工場増設
平成8年12月 工場増設
平成12年4月 株式会社へ組織変更

営業範囲

日本国内

4 実施体制

1 組織



役職	役割・責任・権限
代表者 (代表取締役)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任。 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 環境管理責任者を任命。 環境方針の策定 代表者による全体の評価と見直しを実施。
環境管理委員会 (部課長会議内)	<ul style="list-style-type: none"> 委員長は社長とし、環境管理責任者が召集する。 内部監査の代りに、計画の進捗状況・ガイドラインへの適合状況を審議し、不適合・不具合が有る場合は代表者、環境管理責任者に是正を勧告する。 環境管理責任者の提案を審議し、決定事項を環境責任者は各部門で実施する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理。 環境活動の取組結果を代表者及び環境管理委員会へ報告。 環境目標及び環境活動計画の策定
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐。 環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) 取組データの集計、取りまとめ及び文書記録類の管理。 活動の定期的な確認
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> 担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。 省資源、省エネ、節水等の奨励・実施・確認・是正。 従業員に対する教育訓練の実施
全社員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、能力向上に努める。 教育訓練を受ける 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

5 環境目標

1 主な環境負荷の実績

表1、過去3年の環境負荷等の実績

項目	単位	'14年度	'15年度	'16年度
二酸化炭素排出量	t-CO ₂ /年	1,207	1,319	13,069
廃棄物排出量	t/年	66.87	62.27	67.26
一般廃棄物排出量	t/年	5.21	4.36	1.86
産業廃棄物排出量	t/年	61.660	57.910	65.400
総排水量(水資源投入量)	m ³ /年	799.0	810.0	822.0

購入電力の二酸化炭素排出係数は環境省報道発表2014/12の東北電力実排出係数0.591kg-CO₂/kWhを使用

2 環境目標の設定

当社では、2014年度を基準年度として目標削減率及び単年度ごとの目標値を、それぞれ表2のとおり設定し、環境活動に取り組んでおります。

表2 環境目標

項目	基準年度('14年度)比の削減(増加)率(%)			
	中期目標 2017年度	単年度目標		
		2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素排出量	基準年度維持	基準年度維持	基準年度維持	基準年度維持
産業廃棄物排出量	1.5%削減	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
一般廃棄物排出量	1.5%削減	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
総排水量(水資源投入量)	1.5%削減	1%削減	2%削減	1%削減
グリーン調達	100%増加	100%増加	100%増加	100%増加
化学物質使用量削減	100%削減	20%削減	30%削減	40%削減
総物質生産量	50%増加	40%増加	45%増加	50%増加
製品含有化学物質管理	1回	1回	1回	1回
社員教育	2回	2回	2回	2回

項目	単位	単年度ごとの目標値			
		基準年度	2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素排出量	t-CO ₂ /年	1,143	1,143	1,143	1,143
廃棄物排出量	t/年	21.00	20.79	20.58	20.37
産業廃棄物排出量	t/年	6.36	6.33	6.33	6.33
一般廃棄物排出量	t/年	5.94	5.91	5.91	5.91
総排水量(水資源投入量)	m ³ /年	799.0	791.0	783.0	791.0

6 環境活動計画

当社では、環境方針に基づき二酸化炭素、廃棄物、水使用量を削減し、環境目標を達成するため、従業員が一丸となって省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクル及び節水等に取り組んでおります。

表3 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目		取組内容	評価
二酸化炭素排出量の抑制	照明	昼休みなど、部屋を使用していないときは、照明消灯を確実に実行する	○
		会議室、社員用トイレ、倉庫、更衣室等不必要な時は、消灯している	○
		事務室の部分照明を実行する	○
		稼働時間の長い電灯のLED化	○
		間引き照明の推進	○
	冷暖房	各部屋の冷暖房設定を適正化する(夏28℃、冬20℃)	△
		空調を必要な区域・時間帯に限定する	○
		使用していない部屋は、空調を停止している	△
	節電	ドアの開け放しはしない	○
		残業及び夜間照明は必要最低限にする	○
		昼休みなど、使用しないパソコンの電源はスリープ状態にする	○
	車輛その他	退社時は、パソコンディスプレイの待機電源は切る	△
		工場屋根の断熱塗料の検討と実施	△
		車両、設備のアイドリングストップの励行	○
		急発進・急加速はしない	○
冷暖房の控えめ使用		○	
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	タイヤの空気圧は、適正値を保つよう定期的に調整する	○
		排気ガス、騒音のレベルを抑えるため、適正な車両設備を行う	○
		コピーの抑制	○
		両面印刷、コピーを徹底する	△
		使用済み用紙(片面コピー)の裏面を利用する	△
		通い箱の推進	○
		文書の共有により、不要な印刷物を削減する	○
		個人情報を含まない書類はフレッダー処理を行うがフレッダーする前に	△
		分別を行う	△
		分別されたシュレッダーごみは資源回収業者へ引き渡す	△
	産業廃棄物	梱包材の再利用	○
		電子メールなどを利用し紙を削減する	○
		パソコンで社内ネットワークを構築し、文書を共有する	○
		コピー機のトナーカートリッジの回収、リサイクルを推進する	○
		廃油、廃プラスチック、金属くず、ガラスくずなどは所定の置場に分別保管する	○
資源として有価販売	分別を徹底し有価物化する	○	
	産業廃棄物管理票(マニフスト)をもとに廃棄物の適正な処理を行う	○	
	工程ロス削減する	△	
節水	水道水の削減	地下水の活用	○
		市水及び地下水の節水化	△
その他の取組	PRTR対象物質の使用量削減	作業工程の改善	△
		再生の推進(業者へ売却)	○
	グリーン購入	資源回収リサイクル品として提供	○
		新規に購入しない	△
	社員教育	在庫分のみ使用(床塗料)し、いずれ水性塗料使用	△
エコマーク品の購入を促進する		○	
施設・設備	梱包資材のエコ品の購入を促進する	○	
	EA21取組み教育実施	○	
	緊急事態訓練実施	○	
	ピーク電力使用量の削減維持(デマンド監視にて、440kwh超警報)	○	

○:評価できる、△:まずまず評価できる、×:評価できない

7 環境目標の実績

当社では、環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。

2016年4月から2017年3月までの実績についての評価結果を報告いたします。

表4 当該年度の環境目標の達成状況等

項目	単位	基準年	当該年度		環境目標の達成状況	
		実績値	目標削減率	目標値		実績値
1、電力の二酸化炭素	t-CO ₂ /年	1,143	基準年度維持	1143	1233	×
2、燃料の二酸化炭素	t-CO ₂ /年	63.9	基準年度維持	63.9	73.9	×
3、二酸化炭素合計	t-CO ₂ /年	1206.9	基準年度維持	1206.9	1306.9	×
4、一般廃棄物	t/年	5.21	05%削減	4.95	1.86	○
5、産業廃棄物	t/年	1.96	05%削減	1.86	8.1	×
6、総排水量(節水)	m ³ /年	799	2%削減	783	822	×
7、化学物質保管量	kg/年	22	200%削減	17.6	74.13	×
8、総物質生産量	t/年	212.3	40%増加	297.2	200.9	×
9、グリーン購入	品種	1	100%増加	1	1	○

※目標達成「○」、±20%以下「△」、±21%以上「×」

購入電力の二酸化炭素排出係数は環境省報道発表表2014/12の東北電力実排出係数0.591kg-CO₂/kWhを使用

実施状況の評価

1、電力の二酸化炭素	基準年と同等を目標としたが削減できなかった。 原単位での目標は達成できた。 デマンド監視実施 冷暖房の温度設定対応を継続する。
2、燃料の二酸化炭素	営業車がハイブリット車になった影響で、燃費が良くなり、 エコ運転の意識が高くなり目標達成できた。
4、一般廃棄物	目標達成。さらに削減目指す。
5、産業廃棄物	廃プラの売却が一部できなくなった分が、廃棄に 回ったため量が増えた。 廃プラの削減が課題。
6、総排水量(節水)	従業員の増加に伴い、目標値に届かなかった。 各自の節水の意識向上が必要。
7、化学物質保管量	ペンキ購入にため量が増加。
9、グリーン購入	初物購入時、SDSや環境負荷物質証明書等入手 するよう指導。

環境活動の状況

①会社周辺の清掃活動会社、駐車場道路の整備

駐車場道路の整備



MIMについて

当社では、プラスチック成形の他に、MIM工法による製品もおこなっております。

MIM(Metal Injection Molding メタルインJECTIONモールドING)とは

金属粉末をプラスチックのように射出成形が行えるようにバインダと混練し、射出成形した後バインダを加熱除去し金属単体に焼結させる新しい金属製品加工方法です。

MIMの特徴

- 1 高精度・複雑形状の製造が可能で、形状の複雑な小型部品に適しています。
- 2 プレス、鍛造では不可能な横穴・縦穴付製品を後加工なしで容易に製造可能です。
- 3 切削加工に対し、加工時間を大幅に短縮できます(コスト低減)。
- 4 金属部品がプラスチックと同じ感覚で作れ、大量生産が可能です。
- 5 難切削材料の部品が容易に出来ます。
- 6 溶製材と殆ど変わらない強度・耐食性・磁気特性を有します。

MIM製品



焼結炉



詳細は、当社ホームページをご覧ください。
<http://www.tohno-pre.co.jp/>

MIMのPR活動

展示会等に積極的に参加して、PR活動行っています。



8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容

1. 取組結果の評価

○ 取り組んでいる

△ 取組不十分

× 取り組んでいない

項目	取組内容	取り組み評価
----	------	--------

二酸化炭素排出量の抑制	照明	昼休みなど、部屋を使用していないときは、照明消灯を確実に実行する	○
		会議室、社員用トイレ、倉庫、更衣室等不必要な時は、消灯している	○
		事務室の部分照明を実行する	○
		間引き照明の推進	○
	冷暖房	稼働時間の長い電灯のLED化	○
		各部屋の冷暖房設定を適正化する(夏28℃、冬20℃)	△
		空調を必要な区域・時間帯に限定する	○
		使用していない部屋は、空調を停止している	△
	節電	ドアの開け放しはしない	○
		昼休みなど、使用しないパソコンの電源はスリープ状態にする	○
		退社時は、パソコンディスプレイの待機電源は切る	○
		工場屋根の断熱塗料の検討と実施	△
	車輛その他	残業及び夜間照明は必要最低限にする	△
		車両、設備のアイドリングストップの励行	○
急発進・急加速はしない		○	
冷暖房の控えめ使用		○	
タイヤの空気圧は、適正値を保つよう定期的に調整する		○	
排気ガス、騒音のレベルを抑えるため、適正な車両設備を行う		○	
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	コピーの抑制	○
		両面印刷、コピーを徹底する	△
		使用済み用紙(片面コピー)の裏面を利用する	△
		通い箱の推進	○
		文書の共有により、不要な印刷物を削減する	○
		個人情報などを言った書類はシュレッダー処理を行うかシュレッダーする前に	△
		分別を行う	○
		分別されたシュレッダーごみは資源回収業者へ引き渡す	△
		梱包材の再利用	○
		電子メールなどを利用し紙を削減する	○
	産業廃棄物	パソコンで社内ネットワークを構築し、文書を共有する	○
		コピー機のトナーカートリッジの回収、リサイクルを推進する	○
		廃油、廃プラスチック、金属くず、ガラスくずなどは所定の置場に分別保管する	○
		分別を徹底し有価物化する	○
		産業廃棄物管理票(マニフェスト)をもとに廃棄物の適正な処理を行う	○
		工程ロス削減	△
	資源として有価販売	一般ごみが混載しないように定期的にチェックする	○
		作業工程の改善	△
節水	再生の推進(業者へ売却)	○	
	資源回収リサイクル品として提供	○	
その他の取組	水道水の削減	地下水の活用	○
		市水及び地下水の節水化	△
	PRTR対象物質の使用量削減	新規に購入しない	△
		在庫分のみ使用(床塗料)し、いずれ水性塗料使用	△
	グリーン購入	エコマーク品の購入を促進する	○
		梱包資材のエコ品の購入を促進する	○
社員教育	EA21取組み教育実施	○	
	緊急事態訓練実施	○	
施設・設備	ピーク電力使用量の削減維持(デマンド監視にて、440kwh超警報)	○	

2. 次年度の取組内容

(1) 二酸化炭素排出量の削減

電力に関しては、生産高に合わせた削減目標を設定が必要なため、原単位による目標値設定。化石燃料の削減は、今年度と同等水準を維持。

(2) 廃棄物の排出削減

次年度は生産量の増加が見込まれるので、産廃の排出量を今年度と同等で維持。

(3) 節水(排水対策)

従業員数に合わせ削減数値を設定。(基準年の比率に対して-0.1%の削減)

(4) グリーン購入

グリーン購入できる業者より購入、新規購入品については環境負荷物質調査実施を継続。

(5) 製品・サービスに関する取組

二酸化炭素排出量や廃棄物を削減しながら、生産量UP

(6) その他の取組

5S、改善活動の推進

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける環境基本法など、環境関連法規について遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。

また、今年度は関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟等について、問題がありませんでした。

10 代表者による全体評価と見直しの結果

見直し項目	評価	改善及び指示
1環境方針	エネルギー及び資源節約しながら生産効率を上げ、社会に貢献する。	継続の事。
2環境目標	原単位で目標を設定し、達成できた。	原単位で目標設定し、活動継続する。
3環境活動計画及び環境経営システム	見直し等は特に無し。	引き続き実施する。
4全体評価	電気使用量については、原単位での目標を設定し、今季活動し目標達成できた。但し、産廃量が増えたので削減する方策必要。ムダを無くす改善する意識がもっと必要。次年度の活動に取り入れる事。	